

観桜を目的とした観光地の比較研究 ー茨城県坂東市の「桜のまちづくり事業」を例としてー

足利工業大学 学生会員 ○倉持 直人
足利工業大学 正 会 員 築瀬 範彦

1. はじめに

2009年（平成21年）に茨城県坂東市において「桜のまちづくり事業」が企画された。当該事業は市内江川沿いおよそ10kmに3000本の桜並木を整備するという事業である。坂東市は全国的に見て知名度が高くないため、この事業をきっかけに知名度向上に繋がることを期待している。

日本には観桜を目的とした観光地は各地にあるが、本研究では、坂東市の事業がそれらの観光地のように桜並木を整備した後、予定した観光客の誘致が可能か、維持管理の体制や費用はまかなえるのか等の計画の実現性の検証と観光による地域の活性化の可能性を他地域との比較を通し考察することとする。

2. 観桜を主とした観光地の事例

本研究で対象とした観光地を表1に示す。表1の観光地を選定した理由は、千葉県野田市清水公園と埼玉県幸手市権現堂桜堤は坂東市の近隣に位置する観光地であり、新潟県燕市の大河津分水桜並木と北海道新ひだか町の二十間道路桜並木は坂東市の「桜のまちづくり事業」と同規模の桜並木があるためである。

表1 各観光地の桜並木等の規模

所在（観光地名）	全長 (km)	本数 (本)
千葉県野田市（清水公園）	*	2,000
埼玉県幸手市（権現堂桜堤）	1	1,000
新潟県燕市（大河津分水桜並木）	10	3,000
北海道新ひだか町（二十間道路桜並木）	7	3,000

*：敷地28万㎡

3. 坂東市の「桜のまちづくり事業」の概要

3-1 坂東市の概要

坂東市は茨城県の県西地域に位置し、平成17年に岩井市と猿島郡猿島町が合併した面積123.18km²、人口約56,000人の市である。坂東市内には、「八坂公園」、「逆井城跡公園」及び「歓喜寺の江戸彼岸桜」の桜の名所があり、平成22年4月には「第1回坂東さくらまつり」が開催された。

3-2 坂東市の「桜のまちづくり事業」の概要

坂東市では、市民と行政が協働して魅力的で住みよいまちづくりを目指すため、平成21年6月に、公募による市民と市役所職員により構成された「坂東市まちづくりプロジェクトチーム2009」を組織し、その中の「桜並木プロジェクト」による研究調査により、桜のまちづくり事業が提案された。この提案を受けて桜のまちづくり基金を設置するとともに、前述の

「第1回坂東さくらまつり」において「桜の里親」の募集を開始するなど、桜のまちづくり事業を推進している。

表2 各観光地の桜並木等の管理内容

観光地名	管理費 [委託費] (万円)	管理主体	管理方法
清水公園	70[200]*1	(有)グリーンサービス	消毒、殺菌・殺虫剤散布、ヒコバエ・テングス病枝・枯枝等除去
権現堂桜堤	378	NPO法人 幸手権現堂桜堤 保存会	テングス病・枯枝除去、コスカシバ発生阻害・カミキリムシ発生阻害対策、施肥、生育調査、保全講座
大河津分水 桜並木	—*2	NPO法人 「桜を守る会」	テングス病除去、害虫駆除、施肥、剪定等

4. 研究対象とした観光地の事業内容の比較分析

4-1 桜並木の整備事業内容について

ヒヤリング調査による各観光地の桜の管理主体、管理内容は表2の通りである。

*1 委託先が樹木以外の園内雑管理も行っているため、樹木管理に関する正確な委託費は特定できない。

*2 燕市及び国土交通省信濃川河川事務所大河津出張所と協同で行っているため、維持管理費として計上できない。

キーワード 観桜、観光地、入込客数、地域活性化

連絡先 〒326-8558 栃木県足利市大前町268-1 TEL:0284-62-0605 E-mail: yanase.norihiko@v90.ashitech.ac.jp

4-2 坂東市の「桜のまちづくり事業」との比較

坂東市では、桜の里親やボランティア団体と協働して維持管理作業を行っていく予定である。そのため、維持管理費は年間 1,000 万円程度と見込んでいる。

表 3 は、表 2 をもとに各観光地の樹木毎の管理費用を比較したものである。坂東市の管理費計画は、他地域の事例と比べて大きな差はない。並木延長に関する差は、害虫駆除等のほかに施肥、生育調査及び保全講座の実施を含むものがあるためと考えられる。

表 3 管理費用の比較

観光地名	本数 (本)	延長 (km)	管理費 (万円)	万円 /本	万円 /km
坂東市	3,000	10.8	1,000	0.33	92.59
清水公園	2,000	—	270	0.14	—
権現堂桜堤	1,000	1	378	0.38	378
大河津分水桜並木	3,000	10	—	—	—

5. 観光地の入込客数の比較分析

5-1 樹木を主とした観光地の入込客の推計方法

入込客数の推計にあたり、あしががフラワーパーク（栃木県足利市）の大藤祭りの期間中（4 月中旬～5 月中旬）の観光客数、都内からの観光バスの台数及び足利市花火大会における交通機関別来場者数¹⁾ をもとに、観光客の出発地の地域別（市内：周辺地域：都内）発生比率を推計し、観光客数を算出した。その結果、あしががフラワーパークの入込客数の地域別発生比率は、市内：周辺地域：都内＝2：7：1 であった。この比率を使い、各観光地の市町村人口をベースに算出する。

5-2 坂東市の「桜のまちづくり事業」の入込客の概略推計

推計入込客数は、表 4 の通りである。推計入込客数から、坂東市の人口から算出した推計入込客数は約 70,000 人と権現堂桜堤の推計入込客数の約 69,000 人（2 週間）に近い値を得られた。しかし、この数値は、坂東市が想定している入込客数 10 万人（2 週間）をやや下回る結果となった。

表 4 各観光地の推計入込客数

観光地名	公称入込客数 (人)	本研究による 推計入込客数 (人)
坂東市	100,000	70,000
清水公園	270,000	197,000
権現堂桜堤	850,000	69,000
大河津分水桜並木	900,000	103,800

6. 観桜を目的とした観光地の課題

坂東市の桜並木整備後のアクセス方法を検討する。坂東市には鉄道の駅はなく、バス路線に関しても運行便数の減少を余儀なくされている状況にある。このため、桜並木への交通アクセスは自家用車が主体となり、駐車場が必要となる。坂東市の駐車場整備計画は、位置だけであり、収容台数までは確定していない。本研究では権現堂桜堤クラスの入込客数に倣い、駐車場を 4 か所（約 1000 台）の設置が必要となるものとする。

その他、桜並木を觀賞するための観桜台の設置を行っている地域もあり、坂東市の桜並木にも観桜台を設置する適所もあることから、観桜台も一つの魅力になると考えられる。

7. おわりに

本研究の入込客数は坂東市推計の 7 割になっているが、今後、首都圏中央連絡自動車道路が開通することにより、坂東市内にも猿島岩井 IC が建設され、都内以外の遠方からの観光客も呼び込むことが可能となることから、坂東市の計画である 10 万人（2 週間）以上の来訪の可能性に期待でき、坂東市の「桜のまちづくり事業」による市域活性化は可能と考えられる。しかし、桜の管理方法については先行事例に倣い、施肥、生育調査及び保全講座の実施等の管理の充実を今後の課題と考える。最後に、坂東市では、桜の里親やボランティア団体と協同して維持管理作業を行っていくことを予定しているため、市民が地域活性化に関与しているという意識を持つことも大きな効果をもつのではないかと考える。

謝辞

本研究を進めていくにあたり、資料の提供をしていただいた坂東市企画部企画課、(株) 千秋社清水公園、幸手市役所産業振興課、あしががフラワーパーク、足利市観光協会、NPO 法人分水さくらを守る会、新潟県燕市役所観光振興室楡井氏、並びに、萩原誠氏に感謝の意を示します。

参考文献

- 1) 萩原 誠：「足利市花火大会における動線計画についての一考察」, 平成 20 年度足利工業大学卒業研究